

シンポジウム

希望を 蒔く人



—— アグロエコロジーへの誘い ——

アグロエコロジーの先駆者のひとりとして知られる農民作家・思想家：ピエール・ラビ。さまざまな社会層から、講演がひきもきらない彼の思想やアグロエコロジーのもつ意義、日本における可能性について、ラビに惹かれる3人が語る。

★ 日時：2017年9月30日(土) 16時半～20時(開場16時)

★ 場所：明治学院大学白金キャンパス本館 10階大会議場

★ 主催： commons

★ 共催：アジア太平洋資料センター (PARC)、
全国有機農業推進協議会、日本有機農業学会、
明治学院大学国際学部附属研究所

資料代：700円 事前申し込み：不要
※明学関係者(学生・教職員)は無料

<パネリスト>

- ★ ■ 勝俣 誠 (元・明治学院大学教員)
- ★ ■ ルロン 石原 ペネロプ
(フランス国立東洋文化研究所 日本研究センター博士課程)
- ★ ■ 辻 信一 (文化人類学者、明治学院大学国際学部教員)

ピエール・ラビ (Pierre Rabhi) について

1938年、アルジェリア西部の小村ケナッサ生まれ。フランス国籍。21歳のときに渡仏し、パリに住む。1961年に中南部のアルデシュ県に移住し、現在に至る。アグロエコロジーの先駆者のひとりとして知られる農民作家・思想家。1968年の五月革命以降、研修生を受け入れ、農業技術に加えて、ライフスタイルや世界観も語るようになる。今日では、さまざまな社会層から講演がひきもきらない。邦訳に『良心的抵抗への呼びかけ——地球と人間のためのマニフェスト』(武藤剛史訳、四明書院、2015年)。



お問い合わせ：commons TEL: 03-5386-6972. e-mail: ooe@commonsonline.co.jp

希望を蒔く人

—アグロエコロジーへの誘い—

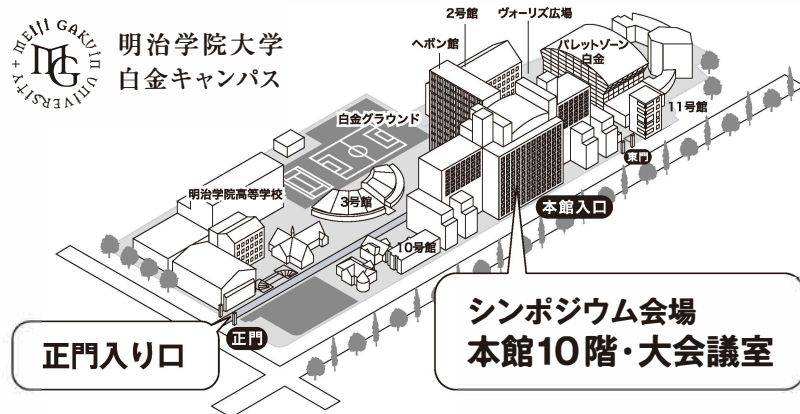
いま世界中で、いのちと生態系を守り、持続可能性と食料主権を達成する農業・社会運動・哲学として、アグロエコロジーが関心を集めています。その第一人者であるフランスのピエール・ラビの語りおろしである『希望を蒔く人—アグロエコロジーへの誘い』がこの7月にコモンズから刊行されました。本シンポジウムでは同書の刊行を記念して、ラビや有機農業に詳しい専門の異なる3人の識者が、彼の思想やアグロエコロジーのもつ意義、日本における可能性について、語り合います。

■日時：2017年9月30日(土) 16時半～20時(開場16時)

■場所：明治学院大学白金キャンパス本館10階大会議場

【最寄駅からのアクセス】

- JR品川駅から目黒駅行きの都営バス [品93] で約6分、明治学院前・下車。
- JR目黒駅から大井競馬場前行きの都営バス [品93] で約6分、明治学院前・下車。
- 東京メトロ南北線/都営地下鉄三田線・白金台駅2番出口より徒歩約7分。
- 東京メトロ南北線/都営地下鉄三田線・白金高輪駅1番出口より徒歩7分。
- 都営地下鉄浅草線・高輪台駅A2出口より徒歩7分。



【プログラム】

- 16:00～16:30 開場&受付
- 16:30～16:35 開会の挨拶 大江正章 (コモンズ代表)
- 16:35～18:35 第1部：プレゼンテーション (各40分)
 - 簡素という豊かさ 勝俣 誠 (元・明治学院大学教員)
 - ラビの思想と生き方—フランスにおけるラビの立ち位置
ルロン 石原 ペネロープ (フランス国立東洋文化研究所 日本研究センター博士課程)
 - ラビおじさんのスロー・スモール・シンプル
辻 信一 (明治学院大学教員)
- 18:35～18:50 休憩
- 18:50～20:00 第2部：パネルディスカッション
 - 勝俣 誠・ルロン石原ペネロープ・辻 信一 (司会：大江正章)



勝俣 誠 (かつまた・まこと)

1946年、東京都生まれ。元・明治学院大学教員。現在、埼玉県ときがわ町と東京の二住生活で、半農半読に勤む。専門は国際政治経済学・南北問題。『希望を蒔く人』では解説を担当した。主著に『娘と話す世界の貧困と格差ってなに?』(現代企画室、2016年)、『脱成長の道一分かち合いの社会を創る』(編著、コモンズ、2011年)など多数。



ルロン 石原 ペネロープ
(るろん・いしはら・ペネロープ)

1990年、フランス生まれ。フランス国立東洋文化研究所日本研究センター博士課程在籍。日本の言語、文化、歴史を専攻し、自然環境保全や有機農業に関心を深める。2012年にラビ氏のアグロエコロジー農場で2週間のボランティア農作業を行う。来日後は埼玉県小川町の霜里農場で1カ月研修。日本の有機農業運動とアグロエコロジーの共通点を研究。



辻 信一 (つじ・しんいち)

文化人類学者、明治学院大学国際学部教員。1999年に「ナマケモノ倶楽部」を設立以来、「スローライフ」「100万人のキャンドルナイト」などの環境=文化運動を提唱。主著に『スロー・イズ・ビューティフル』(平凡社、2001年)、『弱虫でいいんだよ』(筑摩書房、2015年)など多数。本年11月11～12日には「しあわせの経済」世界フォーラム2017～ローカル・イズ・ビューティフル」を東京で主宰。